

## 【あらすじ】「正義の指先」

本記事では、公開予定作品のあらすじをご紹介します。

今回は、悪の戦闘員が正義のヒロインにくすぐり尋問を受けるストーリーとなります。  
(くすぐりメイン)

※F / M、X / M 作品となります。

※くすぐり責め、ソフト寄り、「です」「ます」調で責められたい方

是非、お楽しみくださいね！

### 登場人物：

#### ◆クロウ (Crow)

反政府組織構成員／戦闘班リーダー

年齢：不詳

口調：粗野で反抗的

体型：細身で戦闘向き。拘束されることで無防備さが強調される。

#### ◆セレンシア (Selenia)

魔法少女／対反乱組織専属尋問官

年齢：17歳（外見年齢）

口調：丁寧で穏やか、しかし容赦のない命令調

体型：華奢でスレンダー。線が細く、少女らしさを残す体格。

髪：銀に近い淡い水色のロングヘア。前髪は眉下ぎりぎり。

瞳：氷のように冷たい淡紫色。感情の読めない目をしている。

衣装：色は黒と白を基調とした落ち着いた配色。

## 本編あらすじ

### ■第1章：捕縛と通告

反抗組織ノクターンの工作員・クロウは、魔法少女セレンシアに捕えられ、密室の尋問室へと連行される。白と金の制服をまとった少女の外見に反し、その態度は冷酷かつ揺るぎない。彼女は暴力を否定し、「くすぐり」という異質な尋問手段を告げる。戸惑いながらも強気を貫こうとするクロウ。しかし、拘束椅子に縛られた彼に逃げ場はなく、セレンシアの指が最初のくすぐりを開始する――異様な尋問劇の幕が、静かに開かれる。

### ■第2章：導入尋問

セレンシアは素手でのくすぐり尋問を開始する。

クロウの脇腹や足裏をじっくりと撫でるように刺激し、その反射と笑いによって徐々に精神を削っていく。逃げ場のない拘束と、冷静な口調で繰り返される尋問。クロウは強情に黙秘を続けるも、次第に笑い声を漏らしはじめ、己の理性が崩れていくことを自覚する。セレンシアは「笑えば笑うほど、秘密は浮かび上がる」と語りかけ、くすぐりによる心理破壊のプロセスを淡々と遂行していく。

### ■第3章：機械尋問

セレンシアは次なる段階へと進み、くすぐり尋問用の機械――  
“多点反射刺激装置” を起動させる。

金属製のアームがクロウの敏感な部位を次々と責め立て、圧倒的な刺激にクロウの抵抗も次第に崩れゆく。笑いと恐怖が混じる中、クロウはついにアジトの所在を断片的に吐露。だがセレニアは容赦なく尋問を続け、「もっと深い情報」を引き出そうとする。人間の尊厳と秘密が、笑いの中で崩されていく――。

#### ■第4章：崩壊

限界を迎えたクロウに対し、セレニアは最終段階として出力を最大に引き上げる。数多のアームが全身を這い、細かく、絶え間なく、皮膚を刺激する。呼吸もままならず、笑いと涙に濡れたクロウの口から、ついにノクターンの作戦内容や他の構成員に関する情報が漏れ始める。

セレニアはその一語一語を冷静に記録し、なおも尋問の手を緩めない。くすぐりという異質な手法のもと、尋問が完遂されようとしていた――。

#### ■第5章：正義の少女

拷問にも似た執拗なくすぐり尋問の末、男・クロウはついにすべての機密情報を吐き出す。アジトの構造、幹部の動き、罠の配置……誇りも秘密も削がれ、残ったのは壊れかけた精神だけだった。

任務完了を確認した魔法少女セレニアは、丁寧ながらも冷淡な態度で彼を釈放する。しかし、自由を与えられたクロウに帰る場所はなかった。仲間を売った自責の念と、自分の弱さに押し潰される。